

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

***東京天文台の10mパラボラ電波望遠鏡等関係の古写真資料(1952~1953年頃)**

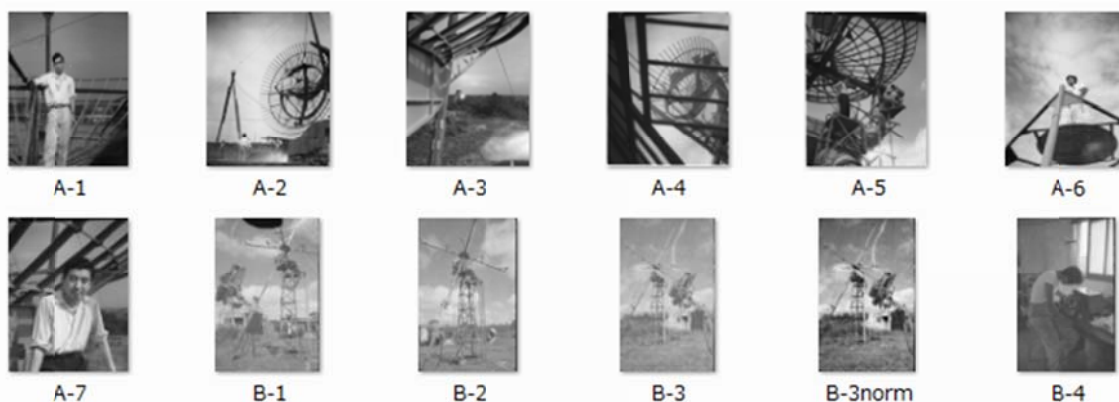
この資料は、2011年1月5日付で元国立天文台職員であった中村士氏から委ねられたものである。これらの資料は国際天文連合の Commission 41 (天文学史) の電波天文学史 WG の president として、各国の電波天文学黎明期の歴史調査プロジェクトをとりまとめているオーストラリア、James Cook University の Wayne Orchiston 氏がフランスに続いて日本の電波天文学の歴史に取りかかった際、Wayne Orchiston 氏に協力した中村氏が土屋淳氏との仲介役をされ、その際入手したものである。

Wayne Orchiston 氏は2010年9月に国立天文台(三鷹)で開催された「第7回東洋天文学史国際会議」(ICOA-7)とその後も11月に来日し、戦後間もなくの電波関係の資料調査と関係者へのインタビューを行なった。その一環として、東京天文台の元職員、土屋淳氏に面会した。中村士氏はICOA-7の組織委員長として、Orchiston 氏と土屋氏との仲介役をしたのである。

土屋氏は東京大学天文学科を卒業の後、東京天文台に入り電波天文学の研究に従事した。その後、東京天文台で月レーザー測距プロジェクトがスタートした時に天体搜索部に移り、人工衛星・月レーザー測距装置の計測とエレクトロニクス装置の設計・開発を指導した。中村氏もこのプロジェクトの一員であり、東京天文台が国立天文台として改組された時には、土屋氏は光赤外天文学研究部の教授として中村氏の上司であった。

中村氏によれば、戦後、畑中武夫氏の指導のもとに日本の電波天文学がスタートしたが、当時の写真資料等は極めて少なく、この土屋氏の1950年代前半の写真は非常に重要な資料であり、それらの解説はさらに貴重であり、土屋氏の了解を得て、写真資料とこの説明文とを国立天文台の歴史アーカイブに寄贈されたのであった。

筆者も、土屋氏とは懇意であり電気技術の手ほどきを受け、堂平観測所では曇った日など夜遅くまで懇談した仲であった。下が10mパラボラアンテナ関係にサムネイルである。





この中の貴重な写真をいくつか紹介する。

まず、写真 A-7 が土屋氏の若いころの写真、A-1 が守山史生氏の若い頃である。



写真 A-7



写真 A-1

また、東京天文台における初期の電波望遠鏡の写真 C-1、C-2 がある。



写真 C-1



写真 C-2

10m パラボラアンテナ組立時の写真 A-2 がある。土屋氏の説明文には「パラボラを赤緯軸フォークに取り付ける瞬間、丸太で組んだ支柱とワイヤーでつり上げ中、吊り上げ動力はモーターであるが写っていない」とある。

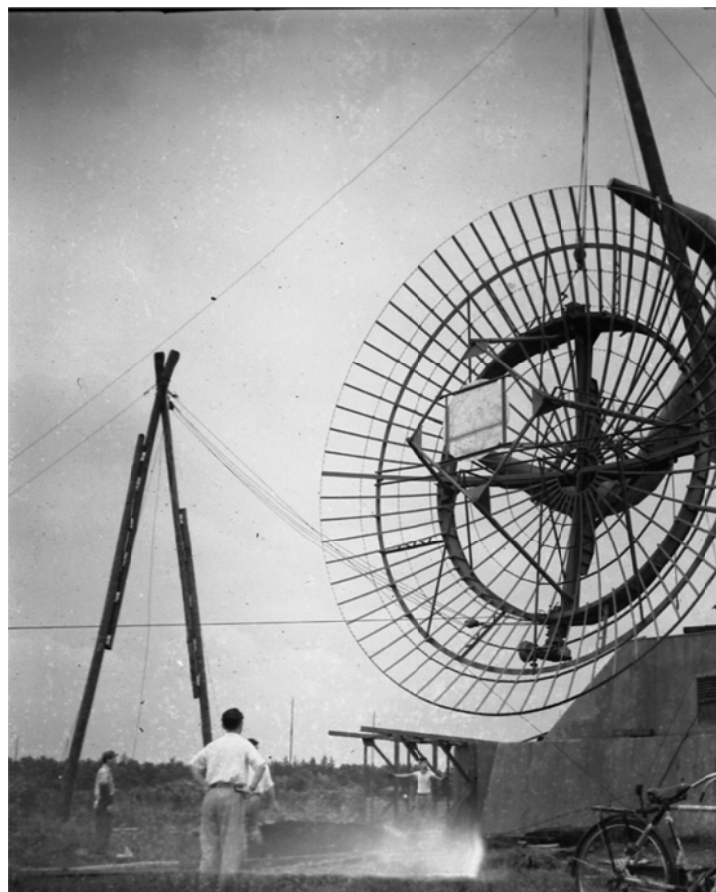


写真 A-2 組み上げ中の 10m パラバラアンテナ

次は写真 A-3 の一部を拡大したものであるが、太陽党望遠鏡が木々の上に突き出して見える。



写真 A-3 の一部を拡大したもの

観測の記録媒体はペンレコであった時代である。写真 D-3 に 4 台のペンレコが写っているが、これには土屋氏のコメント「横河電機製のペンレコーダーであるが、本気はもともとゼンマイ手巻き駆動であったため、運用に不便であった。この写真の上右（下左も？）はそれを改造してモーター駆動としたものである。それを写した写真と思われる。」

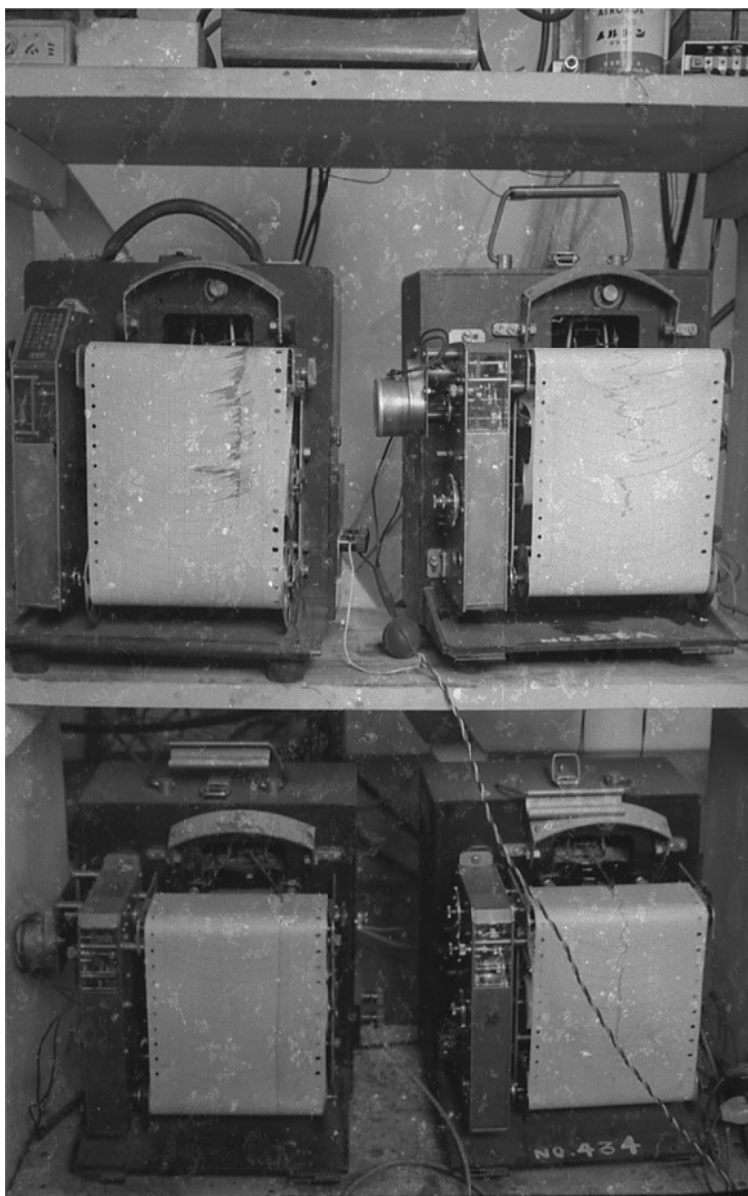


写真 D-3 当時のデータ記録媒体のペンレコ

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp